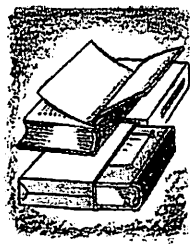


たことをはっきり言わないのは、あい手たいに対して失礼しれいというもののよ。」  
と言うのである。

「失礼おばさん」なんて名まえをつけたのは、どの子なのかもはっきりしない。でも、失礼なことをする子をつかまえて、「失礼ね。」と言うから、やっぱり「失礼おばさん」でいいのかもしれない。

子どもたちは、「失礼ね。」と、しかられてもしかられても、「失礼おばさん」が大すきである。

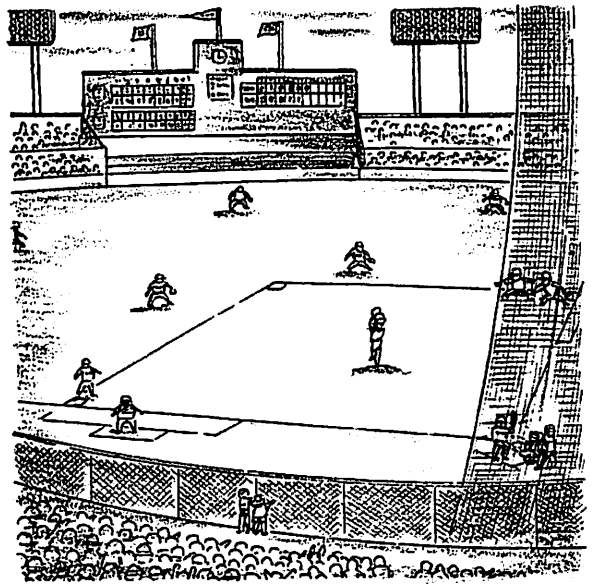


## 2 和男かずおの決心けっしん

和男は小さいときから、正一しょういちおじさんにはいろいろお世話せわになっっている。そのおじさんが、今、交通事故じこで入院にゅういんしている。けんさのけっかが、土曜日の午後、分かることになっていた。和男は、「土曜日、学校から帰ったら、すぐ病院びょういんへ行くからね。」と、自分から、母といっしょに行くことをやくそくした。

その日、学校では、なかよしの幸一こういちが、プロ野球やきゅうのしあいの入場じょうけんを三まい持もってきて、明あきらや清きよたちをさそっていた。

和男は野球が大すきである。それに、町の少年野球のチームに



入り、かんとくからもほめられるほど上手じょうずになっていた。しかも、この町に、プロ野球の公式こうしきじあいがあるのは、年に一度しかない。「和男君くん。君きみも見に行きたいだろう。」

と、幸一に声をかけられた。和男は、いっしゅん、まよったが、「病

院へ行くのは、あしたにのばしてもらおう。」と考え、「うん。ぼくも見に行きたいな。」

と答えてしまった。幸一が、入場けんが一まいたりないので、「じゃあ、三人でじゃんけんをして決めてくれないか。」

と言ったので、三人でじゃんけんをすると、和男と明に決まった。そして、一時半にバスのていりゅう所しょに集合しゅうごうしようとやくそくした。一人になると、和男の心の中に、おじさんが病院で、和男の来るのを楽しみに待まっているすがたがうかんだ。すると、今までかわいがってくれた思い出が、次つぎから次へと思ひ出されてきた。もうちょうで手じゅつしたとき心配しんぱいしてくれたこと、ドライブやりこり行こにつれて行こってくれたことなど。

「そうだ。病院へ行こう。正一おじさんがぼくを待っている。」和男は心を決めた。さっそく清に電話して、自分の代かわりに野球を見に行こってもらおうようにたのんだ。そして、バスのていりゆ

う所へ出かけた。しばらくすると、幸一と明がやってきた。

「やあ、和男君。ずいぶん早かったね。」

「今日のしあい、ホームラン、何本打つか楽しみだね。」

と話しかけてきた。和男は、幸一たちに、

「幸一君。ごめん。ぼく、入院しているおじさんを見まいに行くので、野球を見に行かれないんだ。」

「お見まい、あしたでもいいんだらう。」

「うん。でも、ぼく、どちらにしようか考えたんだ。おじさんはぼくが行くのを楽しみに待っているんだ。お母さんかあともやくそくしたし。野球は清君に行ってもらおうようにしたからね。」

「そうか。ざんねんだけど、しかたないや。」

幸一たちが分かってくれたので、

和男もほっとした。

急いそいで帰ると、母が待っていた。

母はわけを聞いて、

「和男は、お友だちと野球を見に行きたかったんじゃないの。」

と言ったが、和男は、

「うん。ずいぶんまよったよ。で

も、正一おじさん、ぼくが行く

のを首を長くして待っているから。」

と、はっきり答えた。



## 2 和男の決心

1-(1) 自分でできることは自分でやり、節度のある生活をする。(節度、自立)

### ①主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

本主題の中心的価値は自立である。およそ教育は自立の人間の形成をめざしている。自立の基礎は、集団生活ができる、自分のことは自分でする、自分の考えや意見がはっきりと述べられる、生きる主体として環境に積極的に働きかけることができるということである。自立性とは、自分の二本足でしっかり大地に立つということである。他律から自律へ向かって移行しようとしている時期の子どもにとって、自分の正しいと信ずるところに従って行動しようとする態度を養うことは大切だと考えられる。

〈子どもの実態について〉

三年生ともなると、かなり他人の立場も認め、客観的に内省する能力も成長し、家庭や学校における人間関係を理解し、自分の在り方を反省することもできるようになる。しかし、子どもたちの学校生活の中には、人の言動に左右されるという主体性のない言動も見受けられる。こうした段階にある子どもたちに、他人の意見

や行動に惑わされなくて、自分でよく考えて決断をし、実行する態度を養うことは大切である。

〈資料について〉

小さいときから可愛がってもらっていたおじさんが、交通事故で入院した。自分からお見舞いに行くと母と約束した日、大好きな野球見物に誘われた。一瞬、迷った和男は、野球の魅力にひかれ、つい、行きたいと言ってしまった。後で病院のおじさんのことを思い、迷いに迷い、病院へ行くことに決めたのである。

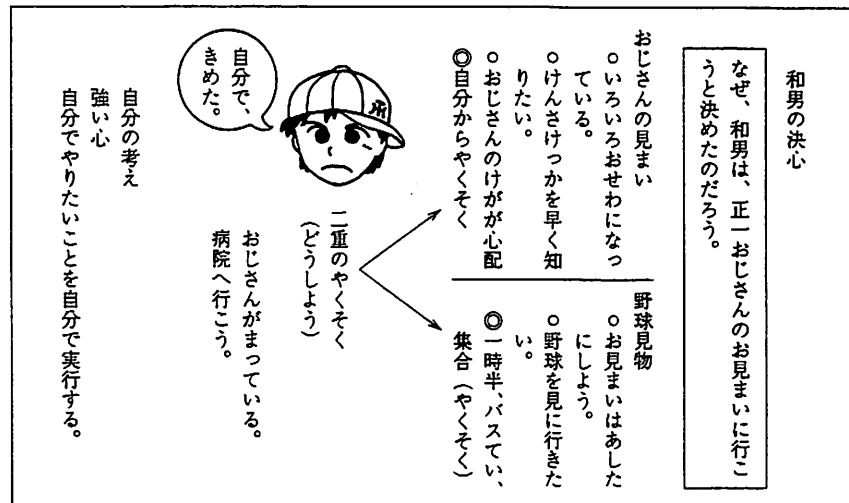
だれに指示されたのでもない、自分で決めたのである。一時の欲望に負けないで、自分の判断と考えに基づいて行動した和男の態度は、自主性の点からも、自立性の点からも、望ましい態度である。また、幸一も、明も、和男の気持ちを分かってくれて、快く許してくれた。

子どもにとっては身近なできごとでもあり、価値に迫らせるのによい資料である。

### ②ねらい

自分でよく考えて判断し、正しいと信ずるところに従って行動しようとする態度を養う。

### □板書



### ③展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) 人の言いなりになり、自分の考えで行動ができなかった経験について話し合う。</p> <p>(2) 資料を読んで、和男の考えや行為について話し合う。</p> <p>① 和男について感じたことを話しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なかなか手に入らない野球の入場券、ほくだったら、だんぜん野球を見に行く。</li> <li>・好きな野球の試合を見に行くのをやめて、おじさんのお見舞いに行ったのはえらい。</li> </ul> <p>② 二重の約束をした和男は、どんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おじさんにいろいろお世話になっている。</li> <li>・検査結果を早く知って安心したい。</li> <li>・帰ったらすぐ病院へ行くからね。</li> <li>・野球、見に行きたいな。</li> <li>・お見舞いならあしたでもいいだろう。</li> <li>・ほく、野球を見に行くよ。</li> </ul> <p>③ 迷いながらもおじさんのお見舞いに行くことを決めたのは、どんな考えからでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幸一君と約束したけれど、おじさんが待っているから。</li> <li>・いろいろお世話になった思い出がある。</li> <li>・おじさんの喜ぶ顔を思うと、約束を破るわけにはいかないから。</li> </ul> <p>④ 母にお見舞いに行くとはっきり答えることができて、どんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほくが決めたことだ。これでいいのだ。</li> <li>・幸一も分かってくれた。おじさんも喜んでくれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいとする価値にかかわる意識がもてるようにする。</li> <li>・迷いながらも自分で決断した和男に焦点をあて、その心を考えるという共通の問題意識がもてるようにする。</li> <li>・野球見物に行く約束をした和男の気持ちに十分共感できるようにする。</li> <li>・二重の約束をした和男が一人になって迷っている心の揺れを、役割演技などにより推察できるようにする。</li> <li>・だれからも指示されずに、自分で決断した和男に共感できるよう展開する。</li> <li>・自分で判断し、最善と考えた行動をとることの大切さに気付くようにする。</li> <li>・なるべく実例や経験を挙げて発表できるようにする。</li> <li>・これからの生活の中で、自分の考えに従って行動するには、どんな心がけが必要かを話し合い、実践意欲が高められるようにする。</li> </ul>
<p>(3) 自分たちの生活を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えにしたがって、誘惑に負けず行動できたことはありませんか。</li> <li>・友達と遊んでいたけれど、決めた時間に家に帰った。</li> <li>・テレビゲームをしたくても、宿題をしてからすることにしている。これからも続けたい。</li> </ul>	
<p>(4) 教師の話聞く。</p>	
<p>※ 週五日制になるまえの、土曜授業日のできごとであることをご配慮ください。</p>	